

被災地で安全に支援活動をするための 団体・グループ用 事前確認シート

災害時にボランティアツアーなどの形態で、団体・グループとして被災地で安全に支援活動をするための大事なポイントをまとめています。事前準備の一環として項目にチェック☑してください。

★ 支援活動をする上で大事にしたいこと

- 移動中・活動中に事故に遭ったり、ケガをしたりしないよう、参加者の安全確保の準備をしましょう。
- 活動中だけでなく、滞在中の行動が被災者や被災地域の負担や迷惑とならないように常に配慮しましょう。
- 被災地では活動者が無理して頑張り過ぎないことも大切です。身体も心も無理なく活動できるよう、衛生面やボランティア一人ひとりの気持ちを大事にしましょう。

★ 情報収集をしましょう

- どの地域にどのような被害が出ているのか、ウェブ等で情報を収集しましょう。
 - * 現地への電話の問い合わせはなるべく控えましょう。
 - * 電気・水道等の復旧状況を確認しましょう。
 - * 活動を予定している地域や、宿泊・滞在する予定の地域と近隣のコンビニや店舗の営業状況を確認しましょう。
- ボランティアの受入れを行っている団体（災害ボランティアセンター等）の活動内容や条件を確認しましょう。
- 活動中にどのような事故が起きているのか、また、起きる可能性があるのか事前に情報収集しましょう。
- 道路状況や交通手段を確認しましょう。
 - * 災害時には道路の寸断で道が通れなくなったり、交通規制によって一般車両の通行ができなくなることがあります。行政機関のホームページで通行できない道路を事前に確認しましょう。
 - * 被災地では渋滞が起こりがちです。公共交通機関を活用するか、知り合いで乗り合わせるなど工夫をしましょう。
 - * 車で行く場合には、活動先の駐車場の有無を確認しましょう。
- 宿泊場所を確保しましょう。
 - * 復旧業者・行政・マスコミ等により宿泊施設の空きが少なくなることがあります。
 - * ボランティア用のキャンプ施設が用意されることもありますが、安全性の面から公園や空き地での宿泊が禁止されている場合があります。
- 余震や噴火、土砂災害など二次災害の危険性を確認しましょう。
 - * 天候に関する情報をこまめに確認しましょう。

★ 活動の計画を立てましょう

- 被災地に負担をかけないようにすることが大切です。出発から帰るまでの間、自分たちのことは自分たちでできるようなスケジュールと活動計画を立て、必要な事前の準備をしましょう。
- 旅行業法や道路運送法など関連する法律の内容やポイント（別紙）を確認するようにしましょう。
- 参加者それぞれに、ツアーの行程や行き先を予め家族など身近な人に伝えておくようお願いしましょう。
- 活動を延期したり、中止する場合の基準を決めておきましょう。
- 万が一、事故や二次災害が起きた場合を想定してマニュアルを作り、共有しましょう。
- グループや団体で活動する場合、主催者は参加者向けの事前の情報提供やオリエンテーションを実施しましょう。

<オリエンテーションで行うこと>

- ① プログラムの目的と概要を説明する
- ② 観光庁が示した災害で名簿提出により旅行業適用外のツアーの場合、旅行業法の適用を受けていないことを伝える

- ③質問を受けて参加者の心配なこと、不安なことをできるだけ少なくする
- ④被災地内での行動で注意してほしいことを伝える
- ⑤プライバシー、記録への配慮のお願いを伝える（SNS、写真、移動中・活動中のおしゃべりなど）
- ⑥参加者の緊急連絡先を把握する
- ⑦参加者から個人情報を取得する際に利用目的の説明を行う
（観産第174号通知によって災害ボランティアツアーをする場合は、自治体・社会福祉協議会等に名簿の提出をすることが必須です。個人情報を自治体・社会福祉協議会等の第三者に提供する旨も参加者に伝え、提供した記録を保管しておきましょう。）

★ 保険に加入しましょう

- 被災地に行く前に、参加者全員がボランティア保険（天災コース）に加入しましょう。
 - * ボランティア保険は、ボランティアのみが対象となります。運営側の有給スタッフは対象なりません。
 - * 地震や噴火、津波等による怪我は「基本コース」では対象とならず、「天災コース」に加入する必要があります。（ただし、活動先によっては保険のプラン選択に指定のある場合や、保障の対象外となる場合があります。）
 - * 現地に車で行く場合、交通事故に遭った際の保険に加入しましょう。

★ 服装や持ち物を準備しましょう

- 受入れ団体のホームページを確認しましょう。災害の種類や活動内容によって持ち物は変わります。
<参考：東日本大震災の際に必要な服装と持ち物>
活動しやすい服装／長袖長ズボン（作業着として）／タオル／マスク（場合によっては防塵マスク）／ゴーグル／軍手／健康保険証／雨具／長靴とプロテクトソール（釘踏み抜き防止中敷き）／（お持ちの方は）ヘルメット／帽子／着替え／常備薬・救急セット／食事／水分

★ コミュニケーションを大切に活動しましょう

- 避難所や仮設住宅は被災者の生活の場です。様々な困難を抱えながら、何度も「困ったことはありませんか」と声をかけられ、疲れている方もいます。相手の立場を考えて行動するようにしましょう。
- 特に清掃や片付けが活動の中心の場合、作業に集中しすぎると、被災された方との認識のズレがおきることがあります。そうならないよう、活動する際には、十分にコミュニケーションを取って活動しましょう。
- ボランティア同士もコミュニケーションを取って活動しましょう。ただし、被災地ではボランティアの気分も高揚しがちです。被災地では、怒りや悲しみを持ちながら暮らしを続けている方がいることを活動中以外も忘れず、落ち着いて行動するようにしましょう。
- ミーティングなど、参加者が心配事や不安に感じたことなどを話せる場を持ちましょう。

★ 活動・現地滞在中の危険に備えましょう

- 二次災害に注意しましょう。
- 宿泊場所の避難ルートを確認し、共有しましょう。
- 病院の場所（休日診療も）を事前に確認しましょう。
- 毎日、活動や参加者の安全面に関わる最新の情報を得るようにしましょう。
- 参加者の健康状態をチェックしましょう。

★ 被災地から戻ってきたら・・・

- 収支報告をしましょう。
- 主催団体として、参加者や被災者のプライバシーに配慮しながら、活動報告をしましょう。
- 今回の活動の計画を振り返って次回の活動に活かしましょう。
- 参加者の惨事ストレスに気をつけましょう。
 - * 惨事ストレスについて詳しく知りたい場合は、下記の当センターの「被災地から帰った災害ボランティアの方へ 心のケア、ストレスケアのヒント」をご覧ください。https://www.tvac.or.jp/saigai_stress.html